

テーマ 「主体的に読書する子をめざして」

能美市立湯野小学校 教諭 北本 希美

1 はじめに

能美郡市図書館協議会は、能美市・川北町の11の小学校と4つの中学校の図書館活用推進員と図書館司書で構成されている。昨年度に引き続き、小学校部会では、「主体的に学ぶ子をめざして」というテーマのもと、研究・実践を進めている。図書館司書と連携しながら、各校で様々な取組を行い、読書指導の向上に努めている。

今回は、能美市の寺井地区の湯野小学校、栗生小学校、寺井小学校の3校の実践について紹介する。

2 実践の概要

(1) コロナ禍での読書指導

図書館の出入りの際の児童の手指消毒の徹底と本の返却の際の本の消毒などを日常的に行っている。また、密を避けるため図書館の休み時間の利用を、学年ごとに曜日を割り当てて行うなど、利用に制限を設けている。

(2) 読書への意欲づけ

①読書カード

月ごとの図書の貸し出し冊数と学年別のおすすめの本の読書記録をつけている。

②読書の達人

学年の目標貸し出し冊数と学年ごとのおすすめの本を10冊以上読んだ児童を「読書の達人」として表彰している。読書の達人になった児童にプレミアムカードを渡すなどして読書への意欲づけを行い、さらなる読書意欲につなげている。

③よんでみ10・多読賞

②の「読書の達人」と類似した取組で、おすすめの本を読んだ児童にプラス1カードを渡したり多読の学級や児童を表彰したりして、読書の幅を広げている。

④図書委員の取組

おすすめの本の紹介、ビンゴ、パズルなど、工夫を凝らした取組を行っている。

(3) 質を高めるための取組

①おすすめの本の設定

各学年の国語の教科書に載っている本をおすすめの本として設定し、その中から10冊読むなど、学年相応の本に触れることができるようにしている。

②教科での実践

年間計画に沿って、並行読書などの必要な本を教室や廊下に置いて、いつでも学習に使えるようにすることで、教科の実践に取り組んでいる。

(4) 地域・PTA との連携

①図書ボランティア

各学級に1回ずつ朝の時間に紙芝居、本の読み聞かせ、語りを行っている。

②家族読書

読書旬間や夏休み期間に、親子で読書の取組を行っている。「家の人が子どもに読み聞かせをする」など、親子読書の形態をいくつか提示し、抵抗なく取り組めるようにしている。

3 今後の課題

身近に関心のある本を整え、読書に関する楽しい取組を行うことで、実際に本を手にとるきっかけとなり、それぞれの児童の本との出会いの場が広がってきた。

しかし、コロナ禍のなかで、図書館へ行くことに制限を設けることで、自由に本を手にとる機会が減ってきている。

また、質を高める取組として、「おすすめの本」の設定など、学年に応じた本を読む機会を意図的につくっているが、進んで学年に応じた本を読む児童とそうでない児童の個人差がみられる。今後、いろんな分野の本を読ませていく機会や場を更に工夫して作っていく必要がある。

また、ICTの活用推進の流れのなかで、パソコンの利用の時間が増加したことで、読書をする時間が減ってきていることも課題である。